

特集

自分たちのまちは 自分たちで守るは

自主防災

多発する自然災害

わが国は、位置や地形などから、地震や台風、豪雨、火山噴火などが発生しやすい国土になっています。

例えば、日本の年間降雨量は約1千700^ミで、これは世界平均の約2倍になります。特に梅雨や台風の時期には局地的な豪雨が起り、各地に大きな災害をもたらしています。

記憶に新しい7月に起きた山口県と福岡県の豪雨は、テレビや新聞などでご覧になられた方も多いと思いますが、死傷者が出るなど、大きな被害をもたらしました。

社会基盤の整っている日本ですが、自然災害をすべて防ぐことは困難なのが現状です。

市内の災害傾向

●大雨災害

過去に登別市で発生した災害の中で、最も大きな被害をもたらしたのが大雨です。これは、太平洋からきた雨雲が、オロフレ山系に集積し大

雨を降らせたことと、急傾斜地や河川が多いことも原因といえます。

近年は、河川改修や治山事業などの整備が進められ、大雨による大きな被害は発生していませんが、局地的な豪雨などでは、必ずしも安全とはいえない切れません。

台風の多い8・9月は特に注意が必要です。

●土砂災害

長雨が連続と少量の降雨でもがけ崩れが発生しやすくなります。

急傾斜地の多い登別市では、7〜10日間程度雨が降り続いた場合、がけ崩れが発生しやすい傾向にあります。急傾斜地付近にお住まいの方は十分注意しましょう。

●地震災害

室蘭地方気象台で観測した最大震度は、『昭和43年の十勝沖地震』と『平成5年の北海道南西沖地震』の震度4です。

登別市は、比較的地震による被害の少ない地域ですが、地震は、大雨などと違い、事前に予測が困難です。突然の大きな地震から身を守るためには、日ごろからの対策が必要です。

9月は防災月間です。

『自らの安全は、自らが守る』これが防災の基本です。いつ起きるか分からない災害から大切な生命や財産を守るためには、災害を知り、災害に備え、自主防災組織に参加するなど、日ごろから準備をしておくことが大切です。

今月号では、自主防災についてご紹介します。

●津波災害

太平洋に面する登別市は、津波による被害が懸念されます。市内で観測している最大の津波は、昭和35年に発生したチリ沖地震の50^{センチ}の記録が残っています。

それほど大きな津波が発生していないのは、登別市の海岸が直線であることや波が分散し広がる地形となっていることが起因しているといわれています。

しかし、たとえ50^{センチ}の津波でも人間が流されるには十分です。さらに津波は土砂や材木、漁船などを巻き込みながら押し寄せてきますので、破壊力はかなり大きくなります。

もしもの場合、海岸線や河川の近く、低地にお住まいの方は、高台に避難しましょう。

市内の主な災害

昭和36年10月6日 集中豪雨

(総雨量平地300^ミ、山間部600^ミ)

死者4人、行方不明者7人

全壊家屋20戸、流失家屋27戸

半壊家屋17戸、床上浸水1千

9戸、床下浸水3千218戸など

昭和43年5月16日 十勝沖地震

(マグニチュード7・9、室蘭

地方震度4)

軽傷者2人、半壊家屋3戸、

一部破損家屋30戸など

昭和51年9月14日 大雨・台風

くずれ(総雨量268^ミ)

重傷者1人、軽傷者2人、

半壊家屋4戸、床上浸水70戸、